

校長室の窓'17

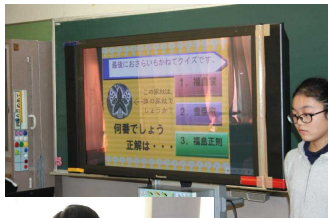
プロジェクトMASANORI —正則だから正則小!?—



極寒の中で世界を相手に戦う選手のドラマが、連日報道されていました。「平昌オリンピックで〇〇選手が活躍したとき、私は6年生だった。」と、大人になったときにふりかえる目印になることでしょう。

さて、正則小では「プロジェクトMASANORI」として、学校の名前になった「福島正則」についてもっと知ろうという取り組みを続けています。この1年の各学年の取り組みを振り返ってみましょう。

1年生は「ふくおうぬりえ」を行いました。「ふく王」はあま市もの知りジュニア検定のキャラクターで、福島正則を模したものです。色とりどりのかわいいふく王ができました。2年生は、「ふく王ピザ」作りに挑戦しました。学年花壇で育てた夏野菜を使って、初めての調理実習です。おいしくいただき笑顔がこぼれました。また、日ごろお世話になっている見守り隊のみなさんへの感謝の会で、「ふく王笑い（福笑い）」を楽しみました。「町たんけん」では一つのグループが、菊泉院（正則公菩提寺）を訪ねて、住職さんから話を聞きました。3年生は遠足で清洲城を見学しました。清洲城はかつて正則公が城主を務めた城です。4年生は、福原分校との交流でふく王のイラストをプレゼントしてきました。5年生は学校



花壇に「丸に十字」の正則公の家紋を描きました。6年生は「オリジナルふく王」を描きました。ユニークなふく王がたくさん生まれました。また、社会科の発展学習で「福島正則」について調べ、5年生にプレゼンテーションしました。仕上げは、職業学習を兼ねて「ふく王まんじゅう作り」を行い、6年間お世話になった家族にプレゼントする予定です。その他、菊泉院の住職さんによる講演会を行ったり、職員室前廊下に「まさのりストリート」を設置したりと、正則公にたくさん触れることができた1年だったと思います。2月12日に行われたあま市子ども狂言発表会「おそそ仁王」にも、3～6年の有志が参加し、立派に演じてくれました。

「セイソク小学校？」と他地区の先生に読み間違えられることがあります。「マサノリです。」「名前みたいですわね。」「名前なんです。福島正則の名をいただきました。」よく、こんなやりとりをします。

プロジェクトMASANORIで、正則の子が「小学校は福島正則の正則小です。6年生のときにふく王のまんじゅうを作りました。福島正則はね…」と、大人になって話ることができるようになってほしい。郷土の英雄や故郷について、誇りをもって語れるようになってほしいと願っています。

